

2年 Global Study 講演会（進路探究：異文化理解）

2月14日（水）13:20~14:10 2年生対象のGlobal Study 講演会（異文化理解）が行われました。東京外国大学オープンアカデミー講師のチェン・ティ・ミー様に講師をしていただきました。チェン・ティ・ミー様はベトナム・ハノイ国家大学で日本語を学ばれた後、日本に留学し、東京外国大学で博士号を取得しました。ベトナム語の司法通訳・ビジネス通訳や国内外で日本語の指導をしています。

今回の講演では「国際人になるために必要なこと」をテーマに、日本の常識が世界の常識でないこと。思い込みを捨てて、相手を理解しようとする姿勢と相手に自分を理解してもらおうとする姿勢の大切さをお話しいただきました。講演では「フクロウ」の捉え方の日本とベトナムでの違いからはじまり、生徒に質問する形で生徒たちが自分たちの思い込みや行動の意味を気づくようにお話しくささいました。

約一時間の講演後は質疑応答の時間となり。日本に来るきっかけ、日本語のむずかしさ、ベトナム語の表現に関する質問が出されました。この講演をきっかけに生徒たちは海外を見る目や異文化理解の大切さに気づいたようです。

この日の6時限目は教室に戻り、日本アセアン協会発行の「ASEAN PEDIA」やオンラインページを活用してASEANや所属国についてのレポートを作成し、さらに異文化への理解を深めました。

・講師の方の自己紹介

・「フクロウ」から異文化を考える

・生徒も積極的に回答



●生徒の感想

- ・自分が理解しようとするばかりではなく、自分のことも相手に理解してもらい必要があることを知って驚いた。知ろうとするばかりでなく、教えることで相手にとっても知ることになるので、互いに利益のあることをすることが大切だと感じた。
- ・自分の知らない世界のことを知ることができてよかった。また自分たちが当たり前に使っていることが周りから見たら特別なことであって意味は？などと聞かれることがあるので、自分でも疑問を見つけて調べられるようにしていきたいと思った。
- ・日本と大きく感じ方の違いがあることを知ったので、これからグローバルな人と関わるようになって行くと思うので勝手に自分の偏見や考えを押し付けずに理解し合って分かち合いたい。
- ・頭の中で外国の文化は日本とは全然違うと認識していたが、そもそも自分のいる日本の文化について知らなかったと気づいて衝撃を受けた。外国の人と日本人として関わるためには、まず日本の文化や習わしについてもっと知る必要があると感じた。あと、日本語は難しいと外国の人から思われていると思ったがそれは日本語だからそうなる訳ではないと言われてどの言語も同じだけの価値があるのではないかと感じた。